

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上P D C A）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日・調査対象 令和4年4月19日（火） 第2学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・社会・数学・理科・英語
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容

(2) 質問紙調査

- ① 生徒質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問紙調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

4 本市の参加状況

- (1) 学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- (2) 生徒数 国語 3,847人 社会 3,850人 数学 3,847人 理科 3,840人 英語 3,742人

5 留意事項

(1) 調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリー別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

(3) 質問紙調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の工夫・改善のポイントを記載した。

(4) 用語について

「カテゴリー別平均正答率」等の中で、学習指導要領において領域による内容構成を行っていない教科についても、内容のまとまりなどを「領域等」として表記した。

1 中学校第2学年 国語

平均正答率

(%)

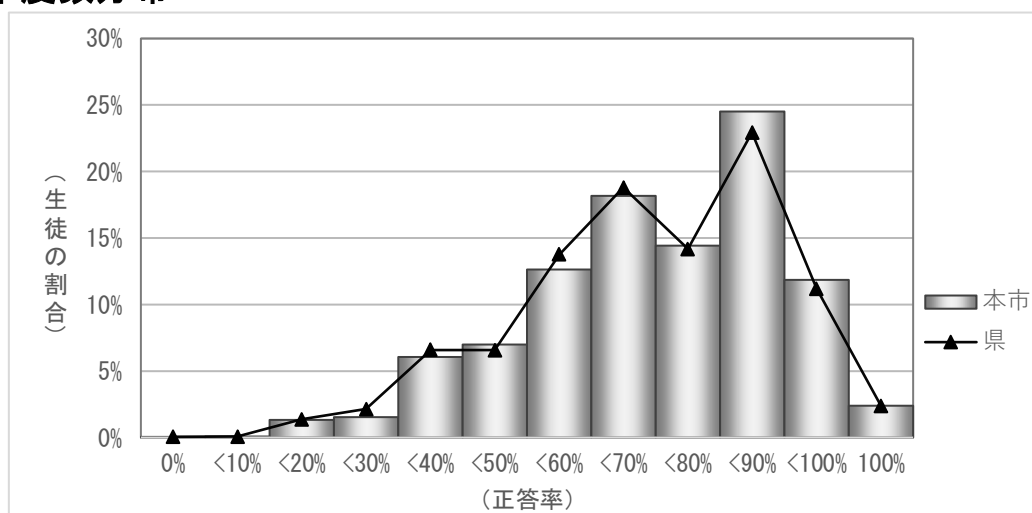
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	69.6	68.7	0.9

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		74.7	73.5	1.2
活用		60.1	59.6	0.5
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9	74.9	2.0
	情報の扱い方に関する事項	50.3	49.2	1.1
	我が国の言語文化に関する事項	92.6	90.7	1.9
	話すこと・聞くこと	64.2	63.4	0.8
	書くこと	63.7	66.4	△2.7
	読むこと	64.2	62.5	1.7
観点別	知識・技能	73.7	71.9	1.8
	思考・判断・表現	64.1	63.8	0.3
	主体的に学習に取り組む態度	53.8	54.8	△1.0

正答率度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 2.0ポイント)

- 故事成語についての理解を問う設問の正答率は 87.1%で、県平均を 1.0 ポイント上回る。故事成語の意味を踏まえて正しく使うことに良好な状況が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 1.1ポイント)

- 情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することの正答率は 59.3%で、県平均を 1.4 ポイント上回る。情報と情報との関係を図式化して整理することに良好な状況が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 1.9ポイント)

- 歴史的仮名遣いについての理解を問う設問の正答率は 92.6%で、県平均を 1.9 ポイント上回る。歴史的仮名遣いを正しく読むことに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 0.8ポイント)

- 自分の考えや根拠が明確になるよう、話の構成を考える設問の平均正答率は 94.5%で、県平均を 0.9 ポイント上回る。聞き取ったことと自分の考えを比較し、その共通点や相違点を踏まえて自分の考えを述べることに良好な状況が見られる。

書くこと (県平均との差 Δ2.7ポイント)

- 自分の考えを明確にして書く設問の正答率は 59.4%で、県平均を 3.1 ポイント下回る。自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認し、根拠を明確にして書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 1.7ポイント)

- 登場人物の心情について、描写を基に捉える設問の正答率は 78.4%で、県平均を 1.4 ポイント上回る。文章の中の場面の展開、登場人物の心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読むことに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

書くこと

- ・ 今回の文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書き、二段落目に自分の考えとその理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第1学年の「書くこと」の指導事項には、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考慮することや、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが示されている。複数の資料を比較し、調べたことを基に考えを形成して書く活動などをおして、段落の役割を踏まえて構成や展開を考慮する学習や、自分の考えの根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用しながら考えを書く学習が必要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 単語がその性質から自立語と付属語とに大別されることや、いくつかの品詞に分類されることなどについて理解する必要がある。それぞれの単語のもつ文法的な役割とともに、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどを理解することが求められる。第1学年での文法との出会いの場面で、丁寧に指導することはもちろん、意図的に復習の機会を設けるなどして、単語と文節の違いを説明させたり、文の中で、単語や文節に区切る練習を取り入れたりすることが有効である。

2 中学校第2学年 社会

平均正答率

(%)

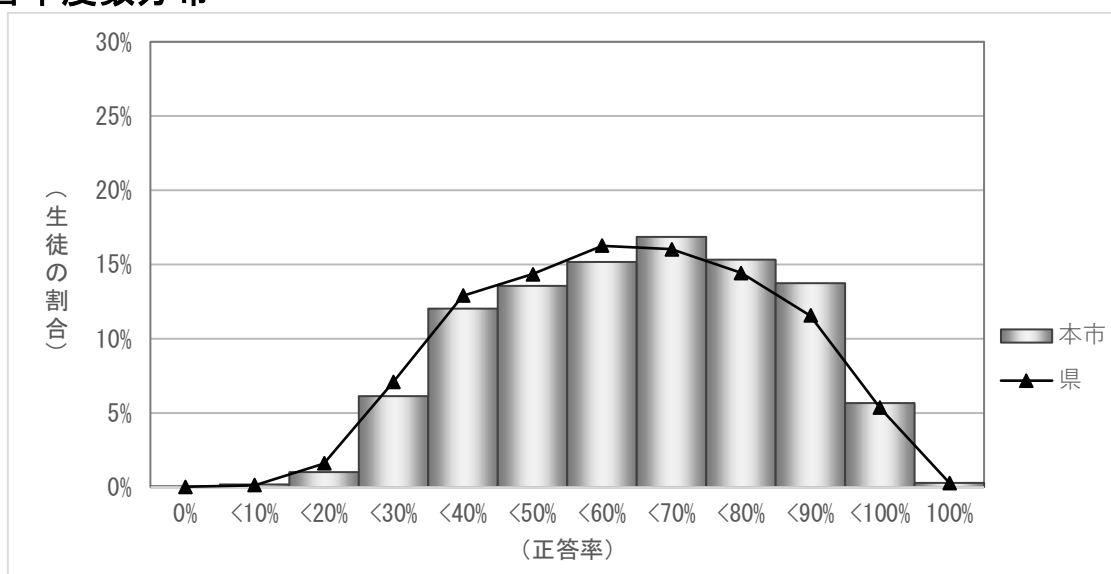
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	58.5	56.7	1.8

カテゴリ別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		61.1	59.3	1.8
活用		52.6	50.8	1.8
領域等別	地理	58.7	57.0	1.7
	歴史	58.3	56.4	1.9
観点別	知識・技能	63.1	61.0	2.1
	思考・判断・表現	52.5	51.1	1.4
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	50.8	1.8

正答率度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

地理 (県平均との差 1.7ポイント)

- 世界全体を4つの範囲に分けて表した模式図から、緯度と経度に関する情報を基に、日本が含まれる範囲を選択する設問の正答率は、63.9%で、県の平均を5.1ポイント上回る。地図に関する基礎的・基本的な知識や技能の定着に良好な状況が見られる。

歴史 (県平均との差 1.9ポイント)

- 古代文明がおこった4つの地域を示した地図から、くさび形文字が使われていた地域を選択する設問の正答率は、県平均を5.7ポイント上回る。世界の古代文明や日本列島における国家形成などを含む古代までの日本の歴史についての基礎的な知識の定着に良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

地理

- ・ 地理的分野のうち、世界の諸地域の学習内容に関する設問の平均正答率は、県平均を0.2ポイント上回っているものの、46.5%となっており、複数の資料から必要な情報を読み取り、文章で表現することなど、知識の活用について課題を抱えている生徒が少なくない。地形図や主題図、図表やグラフなどの資料の読み取りについては、授業を重ねる毎に習熟の度合いが高まっていくことを想定した上で、単元の指導計画を作成することが必要であり、単元の学習課題を追究する過程で、知識と技能を一体的に身に付けさせたり、地理的な見方・考え方を働かせて考察したり、個別の知識を統合したりして表現する学習活動を設定するとともに、生徒一人一人の状況に応じて、適宜、指導を行うことが大切である。

歴史

- ・ 歴史的分野のうち、中世の日本の学習内容に関する設問の平均正答率は、県平均を1.6ポイント上回っているものの、45.0%となっている。中でも、武士の成長について複数の資料をもとに考察し、文章で表現する設問については、無回答率が35.0%となっており、正答率を19.5ポイント上回っている。授業では、生徒が推移、比較、相互の関連などに着目して、社会の変化の様子について捉え、理解することができるよう、単元を貫く学習課題を設定するとともに、適切な資料の活用をもとに、思考力・表現力・判断力等を育成する学習活動の充実を図りながら、生徒一人一人の状況に応じて、適宜、指導を行うことが大切である。

3 中学校第2学年 数学

平均正答率

(%)

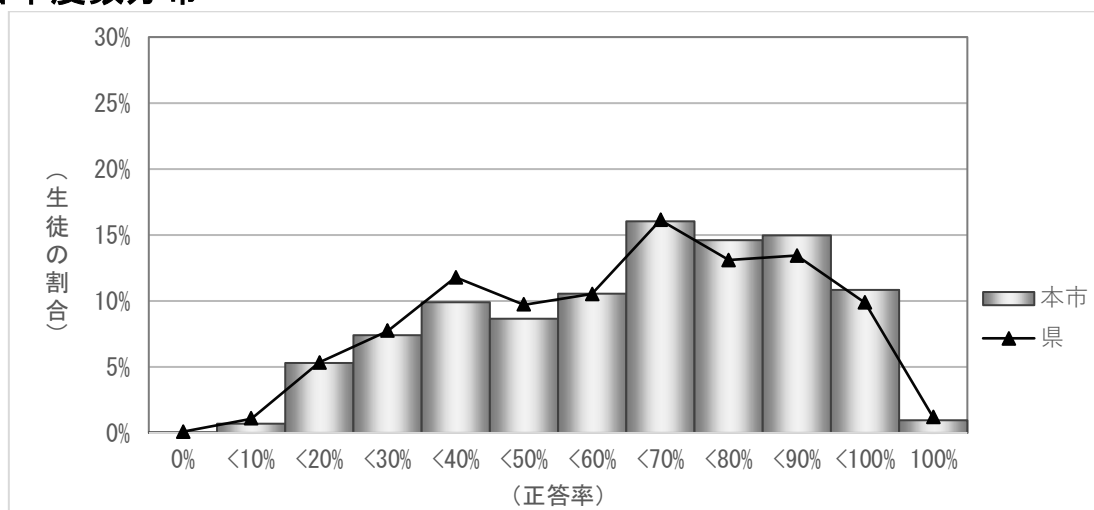
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	61.1	59.4	1.7

カテゴリ別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		62.7	61.1	1.6
活用		56.8	54.7	2.1
領域等別	数と式	69.3	67.7	1.6
	図形	59.8	57.7	2.1
	関数	56.2	54.7	1.5
	データの活用	51.6	49.9	1.7
観点別	知識・技能	63.2	61.5	1.7
	思考・判断・表現	53.5	51.4	2.1
	主体的に学習に取り組む態度	53.0	51.2	1.8

正答率度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と式 (県平均との差 1.6ポイント)

- 収穫したリンゴを箱に入れる個数が異なる2つ場面をもとに1次方程式を立式する設問の正答率が58.9%で、県平均を3.2ポイント上回る。与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することに良好な状況が見られる。

図形 (県平均との差 2.1ポイント)

- 座標平面上に表した三角形を対象移動させる設問の正答率は82.2%で、県平均を2.7ポイント上回る。対象の軸の理解に良好な状況が見られる。

関数 (県平均との差 1.5ポイント)

- 反比例の関係の表をもとに x の値からの y の値を求める設問の正答率は78.1%で、県平均を1.1ポイント上回り、比例の式から、比例のグラフをかく設問の正答率は50.4%で、県平均を3.6ポイント上回る。比例・反比例の関係を表、式、グラフを用いて表すことに良好な状況が見られる。
- プールに一定に割合で水を入れる場面での時間と水深の関係を、表をもとに考える設問の正答率は38.2%で、県平均を2.3ポイント下回る。関数の定義についての意味理解に課題が見られる。比例・反比例において、変数 x の任意性に対して変数 y の一意性について、複数の具体例を示しながら学習させる必要がある。

データの活用 (県平均との差 1.7ポイント)

- 持久走の記録を表した度数分布表の累積度数をもとに各階級の度数について考える設問の正答率は54.7%であり、県平均を2.9ポイント上回る。累積度数の理解に良好な状況が見られる。
- 度数分布表から、ある階級の相対度数を求める設問の無回答率は24.6%、示された考えが正しいことを、2つの度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明する設問の無回答率は33.5%であることから、与えられたデータを分析・考察する学習の充実が必要である。

指導の工夫・改善

関数

- ・ 関数の式やグラフを活用して日常生活の問題解決を図る学習においては、関数の定義や変化の割合などの意味を十分に理解した上で、与えられた情報から事象の特徴を的確に捉え、表・図・式・言葉等で数学的に表現する活動を通した問題解決が重要である。

データの活用

- ・ 根拠をもって資料の傾向を捉え、その理由を数学的に説明できるようにするためには、資料の特徴について考え、表現し合う学習を取り入れることが重要である。その際、用語の意味とその用途を確実に理解することは必要であるが、データを扱う活動の中で代表値や計算式を活用しながら、概念を伴う意味のある知識として定着させることが望ましい。
- ・ 授業では、根拠となり得る用語の候補を事前に生徒へ提示したり、感覚的な発言については、複数の生徒の発言をつないで用語を用いた表現に高めたりするなど、数学的に望ましい表現の仕方を生徒が認識できるように指導を工夫することが有効である。

4 中学校第2学年 理科

平均正答率

(%)

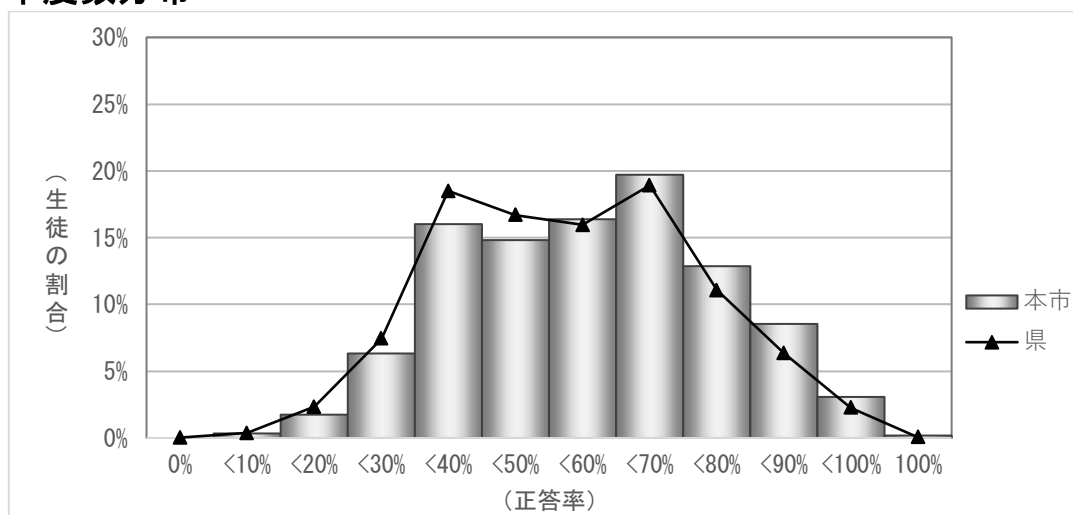
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	56.0	53.2	2.8

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎・基本		61.2	58.8	2.4
思考・判断・表現		44.1	40.5	3.6
領域等別	エネルギー	60.3	57.4	2.9
	粒子	53.8	50.7	3.1
	生命	71.2	67.8	3.4
	地球	35.3	33.8	1.5
観点別	知識・技能	59.9	57.0	2.9
	思考・判断・表現	52.4	49.7	2.7
	主体的に学習に取り組む態度	43.3	39.8	3.5

正答率度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

エネルギー (県平均との差 2.9ポイント)

- 虹のような帯が見える現象が光の屈折に関する現象であることを指摘する設問の正答率は43.0%で、県平均を4.5ポイント上回る。光の屈折についての理解に良好な状況が見られる。

粒子 (県平均との差 3.1ポイント)

- 水とエタノールの混合物を加熱したときに発生する気体について答える設問の正答率は43.0%で、県平均を4.8ポイント上回る。水とエタノールの混合物を加熱したときに発生する気体の性質についての理解に良好な状況が見られる。

生命 (県平均との差 3.4ポイント)

- 双子葉類と単子葉類に分類する基準について指摘する設問の正答率は56.1%で、県平均を6.3ポイント上回る。双子葉類と単子葉類の分類の基準についての理解に良好な状況が見られる。

地球 (県平均との差 1.5ポイント)

- ビワの花のつくりからビワの実が花のどの部分に由来するかを指摘する設問の正答率は56.7%で、県平均を6.1ポイント上回る。植物の花と果実の関連性についての理解に良好な状況が見られる。
- 双眼実体顕微鏡の操作手順を正しく並び替える設問の正答率は19.9%で、県平均を0.6ポイント下回る。双眼実体顕微鏡の操作技能についての習得に課題が見られる。

指導の工夫・改善

生命

- ・ 今回出題された問題②(3)のように、生徒の思考力がより必要となる問題は、全国学力・学習状況調査でも出題傾向にある問題であり、新学習指導要領で目指している生徒に必要な資質・能力の方向性を示す問題となっている。生徒の思考力を高めるには、探求型の学習活動を行うことが重要であり、探求する過程において、思考力、判断力を向上させることができるようにしたい。その際には、生徒の考えを生かし、誤答も含めて検討する対話的な場面を設けるとともに、理科の見方・考え方を働かせながら、話し合いを進めることができるようにコーディネートする必要がある。

地球

- ・ 双眼実体顕微鏡や顕微鏡を使った観察は、肉眼では見えない世界を見るという、知的欲求を満たすものであることから、生徒が意欲的に行うことができる学習活動となっている。そのため、特に1年次では、生徒が正しい操作技能を身に付けることができるよう、時間をかけ丁寧な指導を行うよう心がけたい。操作技能を確実に身に付けさせるためには、パフォーマンステストを実施することや生徒同士の相互評価を行うことが有効な方法であり、また、1人1台端末を活用して、自分が操作をしている様子を動画で見返すなど、ICT機器を活用した自己評価を行うことも有効な方法の1つである。

5 中学校第2学年 英語

平均正答率

(%)

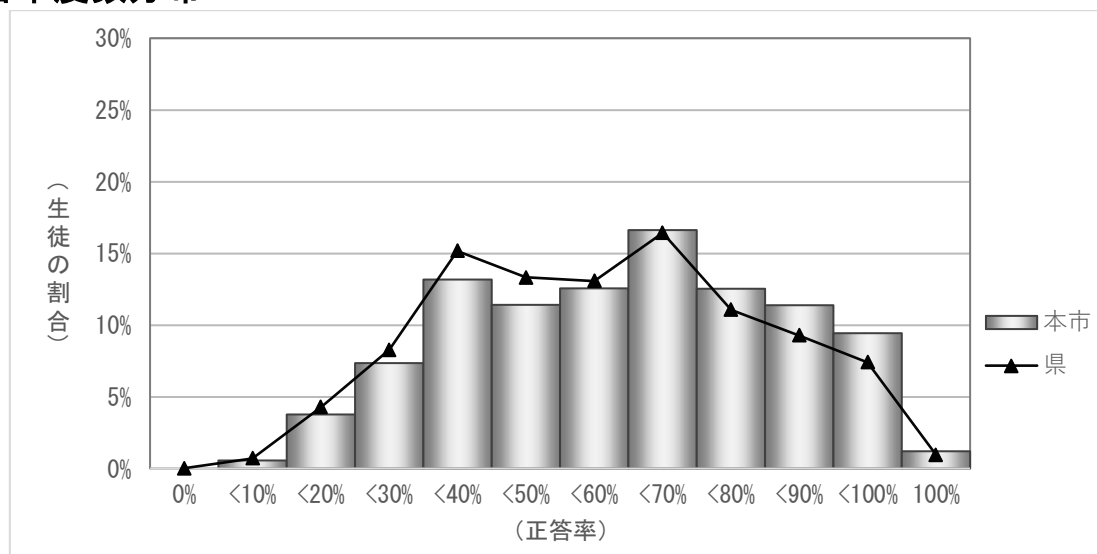
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	59.1	56.1	3.0

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		61.1	58.1	3.0
活用		54.5	51.6	2.9
領域等別	聞くこと	59.6	56.1	3.5
	読むこと	61.6	59.1	2.5
	書くこと	55.2	51.9	3.3
観点別	知識・技能	64.7	61.9	2.8
	思考・判断・表現	52.4	49.1	3.3
	主体的に学習に取り組む態度	56.1	52.5	3.6

正答率度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

聞くこと (県平均との差 3.5ポイント)

- 絵を適切に表している英文を聞き取る設問の正答率は60.4%で、県平均を3.9ポイント上回る。また、対話の内容を聞き取り、適切に応答する設問の正答率は60.0%で、県平均を5.5ポイント上回る。英文の内容を聞き取り適切な状況を選ぶことや、英語の問いかけに対して適切に応答することに良好な状況が見られる。
- 英文を聞き取り、尋ねられたことに対して自分の考えを英語で答える設問の正答率は20.2%で、県平均を4.2%上回るものの、全体でも正答率が最も低い。聞き取った内容をもとに考えや気持ちを表現する活動の機会をより多く作っていく必要がある。

読むこと (県平均との差 2.5ポイント)

- 対話文を読み語形・語法を理解する設問の正答率は64.3%で、県平均を6.2ポイント上回り、対話の流れと表から適切な語句を判断する設問の正答率は59.1%で、県平均を3.2ポイント上回る。英文を読み、語形を正確に判断することや、文脈等から必要な情報や概要を読み取ることに良好な状況が見られる。

書くこと (県平均との差 3.3ポイント)

- 対話の流れに合った英文を書く設問の正答率は63.6%で、県平均を5.6ポイント上回り、また、テーマに沿ってまとめた英文を書く設問の正答率は50.2%で、県平均を4.4ポイント上回る。対話の内容に合わせて英文を書くことや、テーマに基づいてまとまりのある英文を書くことに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

聞くこと

- 聞くことの指導にあたっては、場面設定を工夫しながら、聞きたくなるような内容とすることや、状況を確認し、聞き取るポイント等を示すことが有効である。また、問いかけに対して適切に応答する力をさらに高めるため、聞いたことをもとに、話すことと書くことと結び付けながら、自分自身の考えや気持ちを表現する言語活動を充実させることで、聞くことに意味を持たせ、適切な応答を自分で考えさせる指導が有効である。

読むこと

- 読むことの指導にあたっては、まとまりのある英文を読んで、必要な情報や要点、概要を適切に読み取る力をさらに高めるため、事前に内容についてやりとりしたり、手がかりとなる語句や表現を確認したりするなどの工夫が必要である。英文の内容と生徒の既有知識や経験を結び付けるなど、内容を自分に身近なこととして捉えさせ、生徒の読む意欲を高める指導が有効である。

書くこと

- 書くことの指導にあたっては、思考ツールを活用し書く内容について整理する時間を設けたり、書く前に意見や考えのやりとりを行ったりするとともに、誰に向けて書くのかという相手を設定するなど英文で自分の考え等を表現することへの意欲を高める必要がある。また、内容を要約した英文を考えさせるとともに、自分の意見や気持ちを付け加える等、既存の英文を生かしながら自分の表現へとつなげていくことも有効である。

6 中学校質問紙調査

【生徒質問紙調査】

調査結果（全 113 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と3ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	91.9%	0.7
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	73.1%	0.8
3	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	79.3%	3.5
4	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。	68.0%	1.8
5	学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。	92.3%	5.1
6	本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。	71.5%	1.3
7	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	95.0%	△1.1
8	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	84.9%	△3.2
9	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	73.4%	△4.1
10	グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	76.4%	△1.2
11	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	45.1%	2.5
12	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	33.3%	△4.3
13	家で、学校の授業の復習をしている。	72.2%	△0.4
14	家で、学校の授業の予習をしている。	45.5%	3.6
15	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	64.8%	1.5
16	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	62.4%	3.9
17	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	68.9%	1.6
18	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※2時間以上	30.0%	△1.4
19	自分には、よいところがあると思う。	76.0%	1.7
20	自分はクラスの人役に立っていると思う。	60.7%	0.6
21	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	65.5%	1.9
22	自分の行動や発言に自信をもっている。	54.7%	2.3
23	地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある。	78.5%	3.2
24	先生は学習のことについてほめてくれる。	82.7%	2.2
25	家的人是、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	79.4%	2.1
26	家の人と将来のことについて話すことがある。	69.6%	4.9
27	家の人と学習について話をしている。	84.9%	5.0
28	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	31.1%	1.4
29	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	59.6%	0.8

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

学ぶ意欲・授業について (No.1～No.12)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は90%以上であり、特に高い。学習規律の維持徹底を図る指導が行われていると考えられる。
- No. 2～5 の肯定的な回答の割合は県平均より上回っており、特に No. 5 は5ポイント以上高く、上回り方が大きい。生徒の知的好奇心を大切にした指導や、学習への有用感を高める指導が工夫されていると考えられる。
- No. 6 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。学校図書館を活用した学習やコンピュータを活用した学習を取り入れ、情報活用能力を育む指導が推進されていると考えられる。
- No. 7, 8 の肯定的な回答の割合は90%前後であるが、県平均を下回っている。授業の導入時に本時の授業で学ぶことを生徒と共有し見通しをもたせるとともに、生徒自身が改めて確認する機会が必要である。
- No. 11, 12 の肯定的な回答の割合は50%未満に留まっているとともに、No. 12 については県平均を4ポイント以上下回っている。自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育む指導を工夫することが必要である。

家庭学習について (No.13～No.18)

- No. 13～17 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭学習に主体的に取り組む態度を育むための指導が推進されていると考えられる。
- No. 18 の家庭学習の時間について、県平均を下回っている。家庭学習の習慣化に向けた指導について、引き続き推進していく必要があると考えられる。

自分自身のこと・家の人や先生について (No.19～No.27)

- No. 19～22 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。挑戦したり達成感を味わったりすることができる教育活動を積極的に取り入れるなどして、自己肯定感や心のたくましさが育まれていると考えられる。
- No. 25, 26 の肯定的な回答の割合は県平均より4ポイント以上高く、上回り方が大きい。キャリアに関する指導や学習の充実に向けた指導が、家庭と連携・協力しながら進められていると考えられる。

毎日の生活について (No.28, 29)

- No. 28 の携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日に1時間未満の生徒の割合は県平均を上回っている。「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組等により、節度のある使用についての指導が進められていると考えられる。

【学校質問紙調査】

調査結果（全 65 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題の活用に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No. 9～14 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

〈生徒の様子〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	100%	3.2
2	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	96.0%	△0.2
3	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	92.0%	3.4
4	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.0%	4.5

〈学校の取組〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	生徒の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	100%	3.2
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	100%	13.3
7	授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	88.0%	9.5
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	100%	1.9
9	宿題の出し方について、教科間で情報交換をしている。	68.0%	△7.9
10	生徒の実態を把握して、宿題を出している。	84.0%	△0.2
11	やり方を生徒に十分説明して、宿題を出している。	92.0%	5.9
12	宿題について、評価・点検の仕方を教職員間で情報交換している。	88.0%	12.1
13	宿題の内容に応じて評価し、生徒に伝える工夫をしている。	80.0%	2.8
14	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	88.0%	15.2
15	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	96.0%	12.5
16	教職員は教科の枠にとらわれず、指導案検討を行ったり、授業研究会で発言したりしている。	88.0%	△0.6
17	全体で行う研修と小集団で行う研修を効果的に組み合わせている。	96.0%	7.4
18	本調査実施後、調査対象学年の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している。	72.0%	△2.7
19	本調査実施後、調査対象学年の1学年下の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	69.6%	△9.6
20	調査結果の分析を全教職員で行っている。	80.0%	△3.5

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

生徒の様子 (No.1～4)

- No. 1～3の肯定的な回答の割合は90%以上であり、特に高い。話し方や聞き方を含む学習規律の徹底について、学校全体での組織的な指導が推進されていると考えられる。

授業における学習指導 (No.5～8)

- No. 5, 6の肯定的な回答の割合は100%であり、特に高い。思考力や表現力を育むため、言語活動の充実が図られていると考えられる。
- No. 7の肯定的な回答の割合は85%以上であり、県平均を9ポイント以上上回っている。主体的に問題発見・解決に取り組む態度の育成が図られていると考えられる。
- No. 8の肯定的な回答の割合は100%であり、特に高い。指導と評価の一体化を念頭においた授業づくりが意識されていると考えられる。

家庭学習の指導 (No.9～14)

- No. 11～14の肯定的な回答の割合は県平均より高く、特にNo. 12, 14は県平均より10ポイント以上高く、上回り方が大きい。宿題の意義や取り組み方などについて生徒や保護者に対して理解を図りながら、家庭学習の習慣化に向けた指導が丁寧に行われていると考えられる。
- No. 9, 10の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。宿題や課題について教科間で共有し、内容について確認するなど、生徒の負担に配慮していくことが必要になると考えられる。

校内研修の充実 (No.15～17)

- No. 15, 17の肯定的な回答の割合は県平均より7ポイント以上上回っている。教員同士が互いに授業を見せ合う取組が概ね定着していると考えられる。

学力調査の活用 (No.18～20)

- No. 18～20の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っている。学習内容の習得状況や課題の改善状況を確認するために、学力調査の問題の活用を工夫する必要があると考えられる。

【生徒質問紙調査と教科の正答率のクロス集計結果】

- ・ 選択肢が「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」である質問について、それぞれの選択肢を選んだ生徒の5教科の平均正答率から、意識と平均正答率との相関を分析している。

より肯定的な選択肢を選んだ生徒ほど平均正答率が高く、「はい」と回答した生徒と「いいえ」と回答した生徒間で平均正答率の差が大きい質問は、正答率との関係があると考えられる。

＜「はい」、「いいえ」と回答した生徒の間で正答率の差が大きい主な質問＞

No.	質問の内容	宇都宮市	
		「はい」、「いいえ」の平均正答率の差	肯定的な回答の割合
1	授業を集中して受けている。	23.1	91.9%
2	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。	16.2	83.7%
3	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。	16.7	68.0%
4	授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている。	18.8	95.0%
5	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	9.1	73.4%
6	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。	20.7	88.2%
7	授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。	13.0	88.5%
8	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	17.0	85.8%
9	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	9.2	33.3%
10	家で、自分で計画を立てて勉強している。	13.5	64.8%
11	家で、学校の宿題をしている。	17.4	94.2%
12	家で、学校の授業の復習をしている。	18.4	72.2%
13	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	19.2	68.9%
14	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	15.9	62.4%
15	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	9.8	78.5%

傾向と考察 正答率が高い児童ほど、以下の問いに対して、肯定的に回答している傾向が見られ

学ぶ意欲・授業について

No. 1	授業を集中して受けている。
-------	---------------

- ➡ 既に肯定的な回答の割合が高い状況ではあるが、今後とも学習規律の維持・徹底に努めることは大切であると考えられる。

No. 2	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。
-------	---------------------------------

No. 3	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。
-------	-------------------------

- ➡ 授業では、教材を工夫して問いを持たせることや、課題解決の過程を大切にしながら授業展開を取り入れることが大切であると考えられる。

No. 4	授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている。
-------	---------------------------

No. 5	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。
-------	-------------------------------

- ➡ 授業では、目標（めあて・ねらい）について、生徒一人一人がその内容を認識できるようにするとともに、学習内容を振り返る機会を確保することが大切であると考えられる。

No. 6	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。
-------	----------------------------

No. 7	授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。
-------	--------------------------------

No. 8	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
-------	--

- ➡ 生徒一人一人に対して考えを発表する機会を保障することや、話し合いの場の設定を工夫することが大切であると考えられる。
また、話し合う目的や話し合い方、書き方のモデルや条件を具体的に示した上で活動を設定したり、生徒の表現を適切に評価し、フィードバックしたりすることが大切であると考えられる。

家庭学習について

No. 10	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
--------	----------------------

No. 11	家で、学校の宿題をしている。
--------	----------------

No. 12	家で、学校の授業の復習をしている。
--------	-------------------

No. 13	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。
--------	---------------------------

No. 14	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。
--------	-----------------------------------

- ➡ 宿題を着実にを行うとともに、家庭学習に主体的に取り組んでいる生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られる。家庭学習の計画の立て方や復習の仕方、間違えた問題について勉強することなど、家庭学習の仕方を具体的に指導しながら家庭学習の習慣化を図ることが大切であると考えられる。

社会との関わりについて

No. 15	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。
--------	----------------------------

- ➡ 地域や社会の事象を授業の教材や宿題に取り入れることが大切であると考えられる。